

新年度スタート

平成 30 年度がスタートしました。どの職場においても 4 月は人事異動がありますが、特に国立病院機構においては中四国グループ内での人事交流のため個々の病院職員が多数入れ替わることが恒例となっています。医局人事による医師の異動ももちろんありますが、機構においては特に医師以外の職員に大きな動きがみられます。今年も高知病院に多大な貢献をしてくれた山田事務部長、長谷川看護部長はじめ多くの職員が他施設に異動しましたが、代わって、これからの高知病院を支えてくれる浅松事務部長、矢野看護部長はじめたくさんの仲間が新しく加わってくれました。国立病院機構の人事異動については、問題もしばしば指摘されていますが、他施設で様々な経験をした職員が加わることで、新しい考え方が導入され病院の活性化に繋がることを期待できます。この新メンバーを加えた力を病院の発展にどのように反映させていくかが重要な課題となっています。

平成 30 年は診療報酬と介護報酬の同時改定に加え、医療計画と介護保険事業支援計画の見直しと、医療費適性化計画の見直し、さらには、全国の市町村による在宅医療・介護連携推進事業の取り組みや、国保改革に伴う保険者努力支援制度などの改革が目白押しになっています。今回の診療報酬改定の最重要ポイントは地域包括ケアシステムの構築と医療機能の分化、強化、連携の推進で特に後半は地域医療構想を前進させることを意味しています。薬価制度についても薬価制度の抜本改革に向けた基本方針に基づき国民の負担減と医療の質の向上を実現する観点から改革が進められています。このような医療環境の中、高知病院がどの方向に向かうべきなのか厳しい判断を求められています。良質で安全の医療を提供することはどのような状況においても変わることはありません。今こそ、全職員が一丸となって高知病院の質向上に努めていくことが重要ではないかと思えます。

今年は 2 月に韓国平昌で冬期オリンピック・パラリンピックが開催されました。オリンピックは金メダル 4、銀メダル 5、銅メダル 4 の 13 個、パラリンピックはそれぞれ 3 個、4 個、3 個の計 10 個と非常に多くのメダルを獲得し私達に大きな感動を与えてくれました。金メダルを取った種目の中に女子のパシュートという競技があります。パシュートは 3 名の選手で隊列を組みチームで速さを競う競技ですが日本は菊池、佐藤、高木姉妹の 4 選手で勝ち抜き、決勝では佐藤と高木姉妹の 3 選手でチームを組みオランダチームと戦いました。オランダチームは全員個人でメダルを取っているメンバーで個々のタイムは日本チームより優れており、体格も良く日本選手は不利にみえました。しかしスタートした序盤はオランダチームに遅れていましたが、徐々に追いつき結果的には圧倒的な強さで勝利しました。素人ですので勝因は詳しくはわかりませんが、3 人が隊列を乱すことなくチームが一つになって戦っていることは伝わってきました。チーム力でオランダに勝利したといっても過言ではないかと思えます。チームという点から高知病院を考えてみますと全職員が同じ考えをもつまとまりのある集団となることで強い力を発揮できる組織へと変化することが可能です。高知病院は一応公的病院に位置づけられていますが、公的な支援はほとんど

なく厳しい環境にある弱い組織です。高齢者人口が増え医療費抑制が喫緊の課題となり、病院運営が大変な時期ですが職員が自覚を持つことで団結力を高め高知病院のチーム力を強化し、この難局を乗り越えていきましょう。